

「自信をもたせる学習評価」の  
在り方ハンドブック

Vol. 1



令和5年2月

「自信をもたせる学習評価」プロジェクトチーム

大村市教育委員会

# 「自信をもたせる学習評価」プロジェクトからの提言

令和5年2月

## 1 評価する力を実践で磨き、指導する力を高めましょう！

学習評価については、教員養成課程において学ぶ機会が、教育理論や教科教授法と比較して格段に少なく、教師として授業を行いながら学習評価の在り方を研究し、評価を実際に行わなければならない方がほとんどではないでしょうか。

目標を実現した児童生徒の姿で表した「評価規準」を毎時間明確にして、児童生徒のよさや成長を「見取る」ことを繰り返すことで、評価する力が磨かれます。

そして、評価規準を明確にすることは、授業後の児童生徒の姿（＝ゴールの姿）を明確にすることであり、授業のねらい（本時の目標）を明確にすることでもあります。

すなわち、指導する力を高めることに返ってくるのです。

ハンドブック vol.1には、学習評価の考え方や手順、留意点を収めました。書棚に立てず、手元に置いて常に参照し、評価する力を高めるために使ってください。

実践の中で、教科等で育成すべき資質・能力をどのように見取ればよいか、研鑽を積みましょう。



## 2 テスト問題等の評価資料を共有し、評価の精度を上げましょう！

「見取る」力を高めるには、教師間の協働が不可欠です。多くの教師と協働すればするほど、「見取る」力が磨かれ、客観性や公平性が高まり、評価の精度が上がります。

しかし、何度も集まって研修を行う時間を設けることが難しい現状で、協働するための一つの方法として、評価資料のオープンシェアが有効だと考えます。

MEXCBTには、全国学力・学習状況調査問題のほか、多くの地方自治体が作成した学力調査問題が共有公開されています。中学校においては、これらを活用して自作問題の質を高めましょう。小学校においても、学年部会で同じ問題を抽出し、学級で解かせた結果を共有し、評価の基準を話し合ってみましょう。

また、どんな力をどのように見取ればよいか、小学校においては市販の評価テストの問題に学ぶことができます。中学校においては、学校内にとどまらず、市内6校のテスト問題や想定平均、実際の平均等をGoogle共有ドライブに保存し、互いの問作の参考にしたり、学校の枠を越えた教科部会で共通問題を盛り込んだりすることを積極的に行いましょう。



## 3 児童生徒に全体の中の自分の位置を情報提供しましょう！

全国学力・学習状況調査や県学力調査が終わったら、結果を児童生徒に返却しています。その個人票には、児童生徒が各自の次の学習に生かせるように、自己の正答・不正答、母集団の平均等が記載されています。

今後、市の学力調査についても、市全体の度数分布等を提供しますので、児童生徒に自分の全体の中の位置を意識させるとともに、教師は評価精度の向上に役立ててください。



## 「自信をもたせる学習評価」プロジェクトの目的

### 【学習評価に関する課題】

- 学校間で評価規準に差があり、評価・評定を決める手順も様々であるため、教師の主観、経験、力量等によるところが大きく、客観性に欠ける部分がある。
- 「新しい評価」の考え方に対する学校（教師）の理解に差があるため、適切に評価できていないのではないかと。そのために、児童生徒や家庭、地域での理解にも差が出て、通知表等の評価に対する誤解が生じる可能性がある。



「自信をもたせる学習評価」の在り方を検討し、児童生徒の学習評価の客観性や信頼性が保たれるようにすることを目的としています。

### 1 「新しい評価」の考え方をおさらいしましょう

- 学習評価とは
- 進め方
- 「指導と評価の計画」を作成するときに
- 授業（指導と評価）を行うときに
- 総括するときに



### 2 学校間、教師間の評価規準の差を減らしましょう

- 評価規準
- 個人内評価
- 「主体的に学習に取り組む態度」の見取り
- テストの共有



# 1. 「新しい評価」の考え方をおさらいしましょう

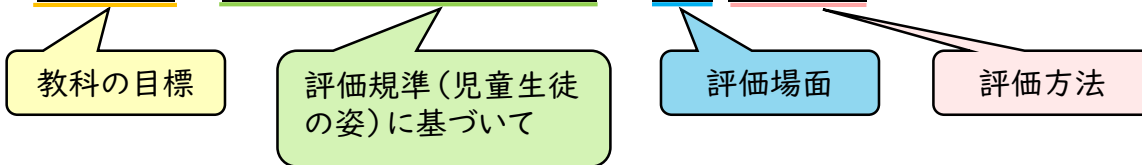
## ■学習評価とは

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の教科等の目標の実現状況を把握するものです。「児童生徒にどういった力が、どのくらい身に付いたか？」という学習状況を的確に捉え、**教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする**ためにも、学習評価は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。つまり・・・

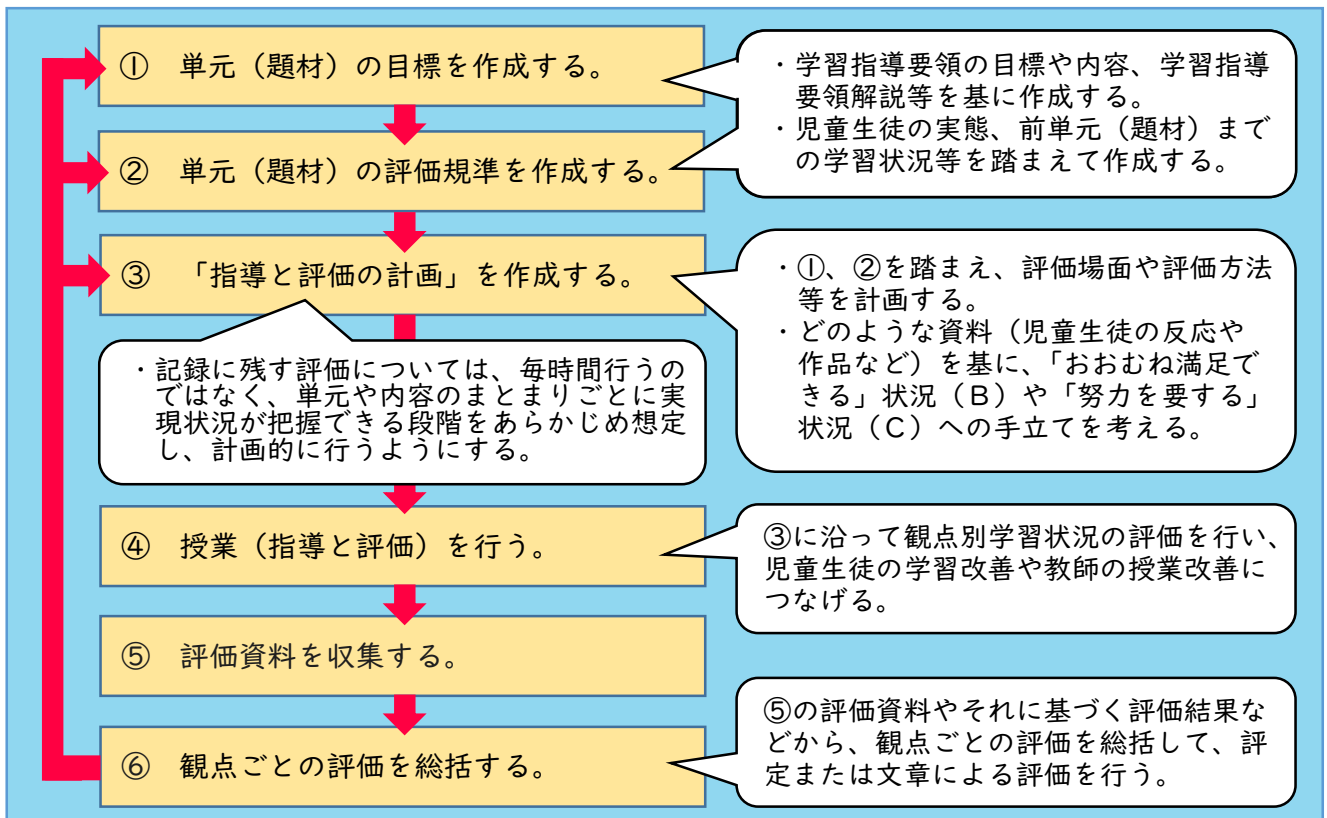
「児童生徒の優劣を判断するための評価」ではなく、  
**「児童生徒一人一人のよさや可能性を見出し、伸ばすことを重視した評価」**が基本となります。

## ■学習評価の進め方

「どういう力が、どのくらい身に付いているか」、「いつ、どのように見取るか」を計画し、実施する。



## 【単元（題材）における観点別学習状況の評価の進め方 例】



《参考：「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（令和2年3月 国立教育政策研究所教育課程研究センター）》

## ■「指導と評価の計画」を作成するとき



**1 単元の目標**

(1) 日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し、表に表したり読んだりすることができる。  
 (2) 棒グラフの特徴やその使い方を理解している。  
 (3) データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察し、見いだしたことを表現している。  
 (4) 進んで分類整理し、それを表や棒グラフに表して読み取るなどの統計的な問題解決のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

**2 単元の評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知識・技能	思考・判断・表現
①日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し、簡単な二次元の表に表したり読んだりすることができる。 ②棒グラフで表すと、数量の大小や差が捉えやすくなることなど、棒グラフの特徴やその使い方を理解している。	①データをどのように分類整理すればよいかについて、解決したい問題に応じて観点を定めている。 ②身の回りの事象について、表や棒グラフに表し、特徴や傾向を捉え考えたことを表現したり、複数のグラフを比較して相違点を考えたりしている。	①進んで分類整理し、それを表や棒グラフに表して読み取るなどの統計的な問題解決のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。	

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1次 データを整理する方法を考え、観点を定めて表に分類整理する。				
1	・データカードを、整理して並べる。		・思①（行動観察）	
2	・「その他」の使い方を知り、表にまとめる。	○知①（ノート分析）	○思①（行動観察、ノート分析）	
第2次 表や棒グラフに表すことができる。表やグラフから読み取ったことを表すことができる。				
3	・棒グラフをかく。 ・棒グラフから分かることを言葉で表す。	○知②（ノート分析）		
4	・2つのグラフを比べて、分かることを表す。		○思②（ノート分析）	
5	・簡単な二次元表に整理する。 ・複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、分かることを表す。			
6	・複数の棒グラフから数値を読み取る。 ・1目盛りの大きさを考えてグラフをかく。	・知①（ノート分析）		
7	・正の字などを用いてデータを数えることができる。 ・交通量調査など、動くものを数える。 ・ペーパーテストに取り組む。	○知①②（ノート分析・ペーパーテスト）		
第3次 自分の調べたい問題について統計的に調べることができる。				
8	・問題を設定する。 ・計画を立てデータを集める。	・知①（行動観察）	・思②（行動観察）	○態①（ノート分析）
9	・表やグラフに整理する。 ・分かったことをまとめる。			
10	・友達と交流する。			

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全員の児童の学習状況について、総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「○」を付けている。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で設定する。

該当する指導事項を示すことで、学習指導要領の指導事項との関連を明確にする。

- ・評価場面を精選する。
- ・評価資料をどのような方法で収集するのか、適切な評価方法を選択する。
- ・指導に生かす評価と記録に残す評価を明確にする。



とても大切なことは分かったけれど、一から作り出すのは大変だな…

**まずは…**

★教科書発行者が出している指導書、指導計画を参考に、加除修正をしながら、よりよいものにしていきましょう。

★単元に入る前に、同学年や教科部会等で指導計画や評価計画について話す機会を増やしましょう。

〔引用：「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（令和2年3月 国立教育政策研究所教育課程研究センター）〕

## 【こんな経験はありませんか？～評価Q&A～】



毎回の授業で、3つの観点全てを評価しなくてもよいのですか？

学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要です。

観点別学習状況の評価の記録に残す評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要です。



## ■授業（指導と評価）を行うときに

### ○課題を提示し、児童生徒が学習活動を始めたとき（形成的評価）

机間指導で取組の様子を確認し…

- ◇正しく活動している → 「できているね」等の言葉かけ
- ◆間違ったやり方をしている → 「こうすればいいね」等の軌道修正
- ◆活動が止まっている → 「ここに注目してごらん」  
「前時を思い出してみよう」等の支援



### ○ノートやプリントなどの評価資料を回収したとき

- ◇ノートの点検は計画的に、見取る項目を明確にして行う
- ◆身に付いていないと判断される児童生徒へは、次に進むアクションを行う  
→ (例) 下校前に少し時間をとって補充指導する  
補充のプリントを渡す  
身に付いていない児童生徒が多い場合は、次時の授業内容を変更する 等

## 【こんな経験はありませんか？～評価Q&A～】



毎日、毎時間ノートを回収して、それぞれの教科の記録簿に記録しています。しかし、その記録にかなりの時間がかかってしまいます。

単元の中で、記録に残す評価をいつ行うのかははっきりさせましょう。記録に残す場面を精選し、適切に評価するための評価計画が大切です。



単元テストの結果、90%以上が25人いました。でもA評価としては多すぎると思い、私は今回のA基準を95%以上にしました。その結果、15人となり適正な人数と判断しました。

目標に準拠した評価では、適切な目標のもとに、適切な評価をすることができたならば、その人数が正しい評価結果と言えます。基準を変える必要はありません。



B先生が作成したテストでは、正答率80%以上の生徒が全体の半数。一方、C先生作成のテストでは正答率30%以下の生徒が全体の三分の一。どの先生が作成するかで難易度が大きく違いました。もちろん学習内容でも違うけれど、簡単すぎるのも、難しすぎるのもよくないけどな…

主に、「知識・技能」、「思考・判断・表現」等の力が身に付いているかどうかを評価するための問題です。難易度や観点別問題数のバランス、解答方式等を教科部会、同学年会等で十分に協議、確認し、テスト作成の能力を高めていきましょう。



## ■総括するとき

○不登校傾向の児童生徒について、日頃からの働きかけが必要

- ・評価不能(／)を避け、できる限り、評価や評定を可能にするための資料の収集に努めておきましょう。
- ・( )付きの評価の場合は、説明ができるようにしましょう。

→安易に、評価「C」や評定「1」としないようにしましょう



## 【こんな経験はありませんか？～評価Q&A～】



授業を受けていないが、定期テストで9割以上得点する生徒がいます。知識・技能「A」、思考・判断・表現「A」、主体的に学習に取り組む態度「C」で評定を4と評価しました。

授業を受けていないから、主体的に学習に取り組む態度をCとするのは適切ではありません。プリントや面談、個別指導の機会を設けるなどして、この観点を見取る努力が必要です。



学習は苦手で単元テストの点数は低く、授業中も集中して受けられていない児童がいます。最近は、板書をノートに書き写し、挙手回数も増えるなど、主体的に学習に取り組む態度は改善されてきました。

知識・技能「C」、思考・判断・表現「C」、主体的に学習に取り組む態度「A」としました。

どの観点であっても、評価は目標に準拠します。

主体的に学習に取り組む態度の評価規準として「板書をノートに書き写す」や「手を挙げる」ことは適切ではなく、それを基にして評価をAとすることも適切とは言えません。この場合、頑張りを認めるとともに、個人内評価として、所見等に残すことになります。

また、「CCA」や「AAC」という評価は適切ではありません。このようなばらつきのある評価になった場合には、児童生徒の実態や教師の授業の在り方など、そのばらつきの原因を検討し、必要に応じて、児童生徒への支援を行い、児童生徒の学習や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められます。



■ 大切なことは、主観や情に流されず、あらかじめ設定した規準に基づいて評価することです。

■ 評価にばかり気を遣いすぎて、指導がおろそかになっては本末転倒であり、無理なく計画的に行うことが大切です。

## 2. 学校間、教師間の評価規準の差を減らしましょう

### ■評価規準

○教科書発行者の指導計画や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料等に掲載されている評価規準をそのまま活用し、学校の実態に合わせて加除修正しましょう。

また、校内研修等で、学習評価の在り方について研修を行い、共通理解を図りましょう。

#### 【評価の客観性・信頼性・公平性の確保】

校内研修で評価の研修を行い、教師間で評価に対して共通の認識をもつ。教師による評価だけでなく、自己・相互評価等、多様な評価の方法を工夫する。保護者や児童生徒に、どのような観点を設定して、どのような方法で評価するかを説明するなど、評価の共有化を図る。

### ■個人内評価

○「一人一人が、どのように成長しているのか。」という意識で児童生徒を見つめるとともに、見取ったよさは日々の教育活動の中で伝えることが重要です。

○教師の一言で、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感し、自己肯定感を高めます。

### ■「主体的に学習に取り組む態度」の見取り

○「主体的に学習に取り組む態度」とは…

自らの学習を調整しようとしながら、粘り強く学習に取り組もうとする態度



児童生徒が、「自ら（選んだり、決めたりして）学ぼうとしている。」

「(振り返って) 学習を調整しようとしている。」

「(試行錯誤しながら) 粘り強く取り組んでいる。」

このような状況が現れる（教師が見取ることができる）ように授業を工夫し、その場面を見逃さないようにしていくことが大切です。

#### ■評価の3観点

##### 《知識・技能》

理解したか、できるようになったか。

##### 《思考・判断・表現》

課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が身に付いているか。

##### 《主体的に学習に取り組む態度》

身に付けてほしい能力のうち「学びに向かう力」の部分で、粘り強く取り組んでいるか、自分の学習を調整できているか。

児童生徒に身に付けてほしい能力  
⇒ 育成すべき資質・能力

#### ■3観点の具体

##### 《知識・技能》

知識を丸暗記しているかではなく、関連を説明できるなど深い理解を伴った知識・技能であるかを評価。

##### 《思考・判断・表現》

知識・技能をうまく活用したり探究したりする中で、資料などが適切かどうかを判断し、そこから自分はどんなことを考えたのかを他者に発信する力などを評価。

##### 《主体的に学習に取り組む態度》

学習目標の達成に向けて粘り強い取組を行おうとする側面と、自分の学習を調整しようとする側面から評価。

### ■テストの共有（中学校）

○テスト実施後に、テスト問題と解答例、設定した平均点等を共有ドライブに保存しましょう。

→自分のテスト作成や指導の参考として十分活用し、テスト問題作成の能力を高めましょう。





《参考資料》

- ・「学習評価の在り方ハンドブック」（令和元年6月 国立教育政策研究所教育課程研究センター）

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka\\_R010613-01.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-01.pdf)



- ・「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（令和2年3月 国立教育政策研究所教育課程研究センター）

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>



- ・「新学習指導要領の全面实施と学習評価の改善について」（令和2年10月 文部科学省初等中等教育局教育課程課）

[https://www.mext.go.jp/content/20201023\\_mxt\\_sigakugy\\_1420538\\_00002\\_004.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201023_mxt_sigakugy_1420538_00002_004.pdf)



- ・「新しい評価の考え方及び指導要録の様式・解説」（令和元年12月改訂 長崎県教育委員会）

<http://www.news.ed.jp/gimu/gimukyoku/hyouka/kaiyetu.pdf>

※長崎県教育庁義務教育課のHP（パスワード入力が必要です。）

- ・「学び続ける教師のために」（令和4年度 小学校版 長崎県教育委員会）

[https://www.edu-c.news.ed.jp/kushimanomori/htdocs/?page\\_id=18](https://www.edu-c.news.ed.jp/kushimanomori/htdocs/?page_id=18)

※長崎県教育センターのHP（パスワード入力が必要です。）

- ・「できる評価・続けられる評価」（令和4年8月 著者 大妻女子大学教授 澤井陽介）

- ・令和4年度「自信をもたせる学習評価」プロジェクトチームメンバーの実践及び協議

令和4年度

「自信をもたせる学習評価」プロジェクトチーム

大村市立三浦小学校	教諭	俵 正展
大村市立鈴田小学校	教諭	才木 真一
大村市立三城小学校	教諭	松倉 弘樹
大村市立大村小学校	教諭	渡邊 大和
大村市立東大村小学校	教諭	中村 公昭
大村市立西大村小学校	教諭	村山 崇
大村市立中央小学校	教諭	樋口 幸範
大村市立竹松小学校	教諭	家永 秀明
大村市立萱瀬小学校	教諭	林 昌男
大村市立黒木小学校	教諭	溝上 達夫
大村市立福重小学校	教諭	井手口 勤之
大村市立松原小学校	教諭	鶴崎 恵士
大村市立放虎原小学校	主幹教諭	田中 克幸
大村市立旭が丘小学校	教諭	本多 博己
大村市立富の原小学校	教諭	松尾 宏輔
大村市立玖島中学校	教諭	赤川 祐一郎
大村市立西大村中学校	教諭	山本 健一
大村市立萱瀬中学校	教諭	山口 英樹
大村市立郡中学校	教諭	杉本 秀樹
大村市立大村中学校	教諭	田中 敏也
大村市立桜が原中学校	教諭	嵩 貴光



